

文化財学習会

ふ る さ と 探 訪

テーマ 川島から仏生山へ昔の道を歩く

講 師 大嶋和則（高松市文化財専門員）

平成 22 年 10 月 24 日（日）

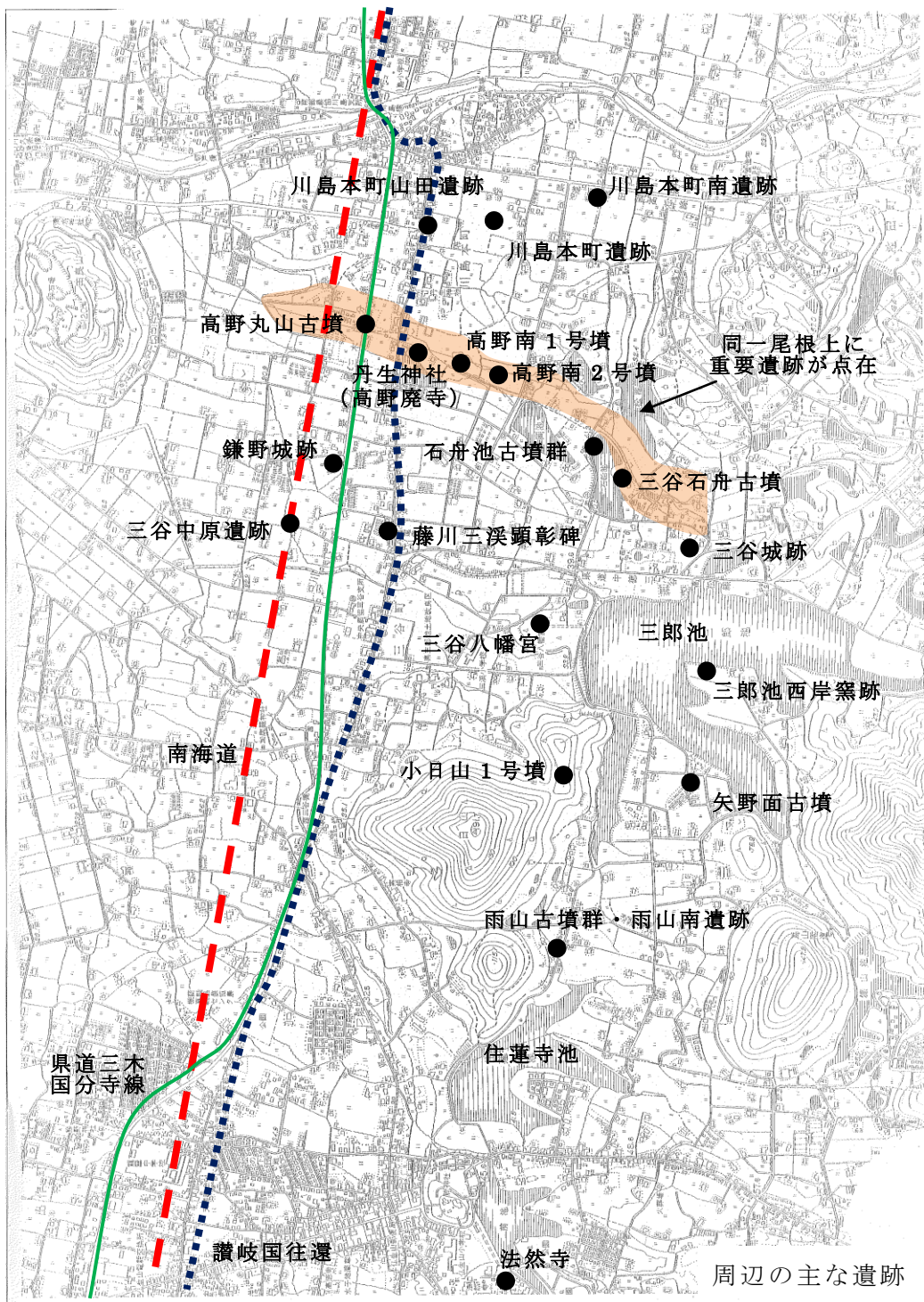
共 催 高 松 市 歴 史 民 俗 協 会
高 松 市 教 育 委 員 会

はじめに

川島・三谷・仏生山地区は、古代には「南海道」が通っていた地域です。南海道は都への連絡や租税を納めるために使われた官道であり、香川県の東西を結ぶ幹線道路でした。特に、三谷には三谿みたに駅が設けられており、交通の要所として知られています。

「南海道」が整備される以前、この地域には古墳時代中期前半に高松平野で最大の前方後円墳である三谷石舟古墳みたにいしふね、中期後半には直径四十メートルの高野丸山古墳こうやまるやまといった高松平野南部の盟主墳が築造されています。白鳳時代にはこれら古墳と同じ尾根上に高野廃寺こうやはいじが造営されており、この尾根周辺が高松平野南部でも重要な地域であったことがうかがえ、このため三溪駅が設けられた可能性が考えられます。

時代は下り、南海道も少しずつ位置を変え、「讃岐国往還おうかん」と呼ばれる道へと変化してきました。近世になると、仏生山に法然寺が造営されると、往還周辺もその門前町として栄えました。また、川島も寛延二年（一七四九）に袖乞闘争そでこてうそうと呼ばれる物乞いが行われるなど、東讃の百姓が事あるごとに徒党を組んで押し寄せており、比較的参集しやすい地域であり、富裕層が存在したことがうかがえます。昭和三十年代に開通した県道三木国分寺線に幹線道路の役割は引き継がれましたが、往還は今も旧道として使われ続けています。

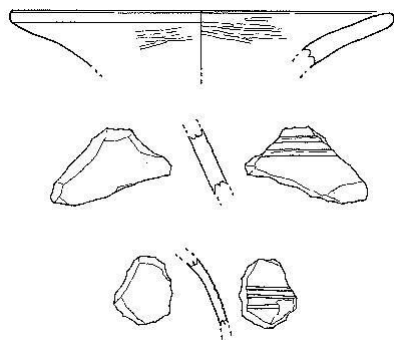


1 南海道 なんかいどう

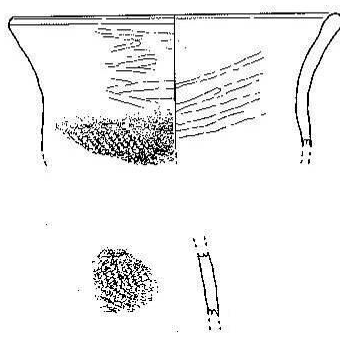
古代の行政区画の五畿七道の一つで、紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊予・土佐が該当します。また、これら諸国の国府と都を結ぶ官道を指します。道の行程は、紀伊から海路で淡路を経て鳴門市撫養で四国に上陸し、大坂峠を経て讃岐に入ります。讃岐内では引田（東かがわ市馬宿）、松本（さぬき市大川町田面）、三谿（みたに高松市三谷町）、河内（坂出市府中町）、甕井（みかい多度津町三井もしくは善通寺市弘田町永井）、柞田（くにと観音寺市柞田町）に駅が設けられました。三谷中原遺跡では南海道の側溝や道路の可能性が高い遺構が検出されています。

2 川島本町山田遺跡 かわしまほんまちやまだいせき

県道西植田高松線道路改良事業に伴い発掘調査が実施されました。縄文時代後期および弥生時代前期の土坑などが検出されており、早い時期から当地に人が住み着いていたこと



川島本町山田遺跡出土弥生土器



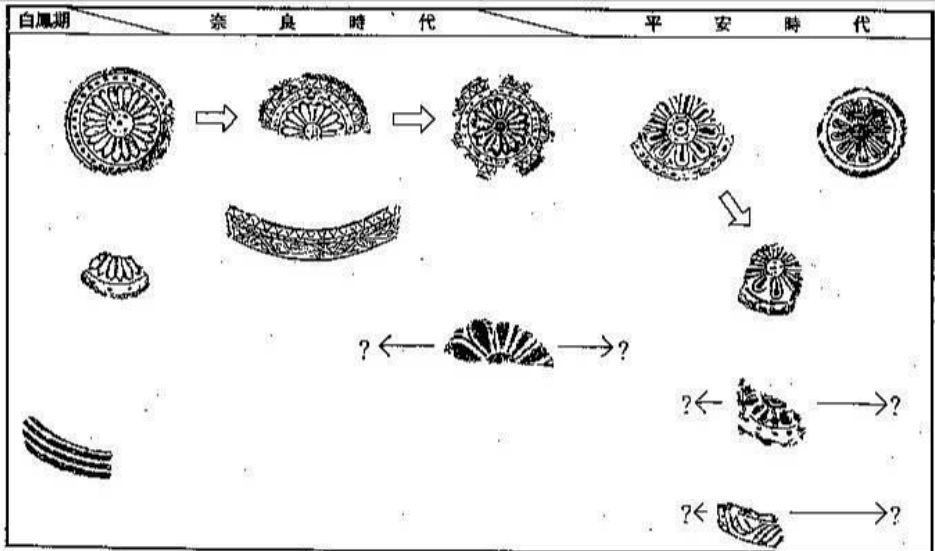
川島本町山田遺跡出土縄文土器

がうかがえます。また、平安時代の条里の坪界溝なども検出されました。同事業では縄文時代後期の土器が出土した川島本町遺跡、弥生時代後期の土器や古墳時代後期のメノウ製勾玉が出土した川島本町南遺跡も発見されています。

3 丹生神社（高野廃寺）

にうじんじや こうやはいじ

池田町の合子神社の境外攝社^{せつしや}で、祭神は^{おかみのかみ}淤加美神です。『全讃史』では「里人はむかし七堂伽藍^{がらん}があったので丹生明神を祀っていたが、長宗我部によって焼き討ちされ祠だけが残っていると云っているが誤りで、淳和帝（八二三〜八三三）^{へんじやういん}が遍照院に喜捨したので、院主の僧が高野明神を迎えて祀り、鬼骨村を高野原と改名したという説が正しい」と推測しています。



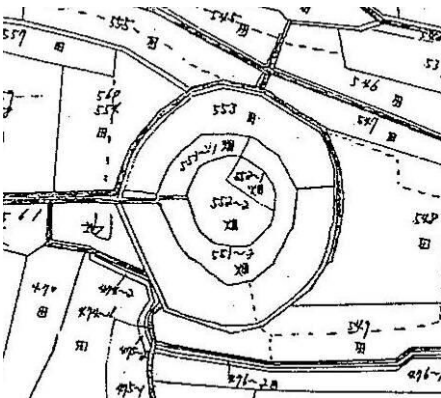
高野廃寺出土瓦

境内からは白鳳時代から平安時代の古瓦が出土しており
丹生神社周辺の東西一五〇メートル、南北一〇〇メートル
の範囲が高野廃寺に比定されています。

4 高野丸山古墳

こうやまるやまこふん

古墳時代中期の直径四十メートルの円墳です。道路建設
等により削平され詳細は不明ですが、古い地籍図から二段
築成の可能性が考えられています。さらに古墳周囲に幅十
〜十五メートルの周濠状の地割が見られ、古墳南側は堀状
となっており、北側は堀状にならず外側が一段下がって
おり、基壇状のテラスと考えられています。同時期の古
墳の中では高松平野で最大級であり、平野南部の盟主墳と
考えられます。現在でも地割りにその痕跡を見ることがで
きます。



高野丸山古墳地籍図



丹生神社

5 藤川三溪頭彰碑 ふじかわさんけいけんしょうひ

藤川三溪は文化一三年（一八一六）一月二四日に山田郡三谷村に生まれ、高松藩の儒医として仕えていました。天保一二年（一八四一）に長崎の高島秋帆たかしゅうはんに師事し、砲術を修め、銃殺捕鯨法も習得しました。文久三年（一八六一）藩に海防の重要性を説き、農兵からなる「竜虎隊」を組織し、長崎鼻砲台を築きました。勤皇の志士として国事に奔走し、一時投獄されましたが、後に奥羽征討軍の軍監になりました。明治六年（一八七三）小笠原に開洋社を設立し、お雇い外国人と共に洋式捕鯨に着手しました。明治二十年（一八八七）東京に日本最初の大日本水産学校、明治三十二年（一九〇九）大阪に水産学校を創立しました。明治三十四年（一九〇一）に病没しました。

6 三谷石舟古墳 みやいしふねこふん

古墳時代中期前半の前方後円墳で、全長八十八メートル、後円部径四十四メートル、高さ四・五メートル、前



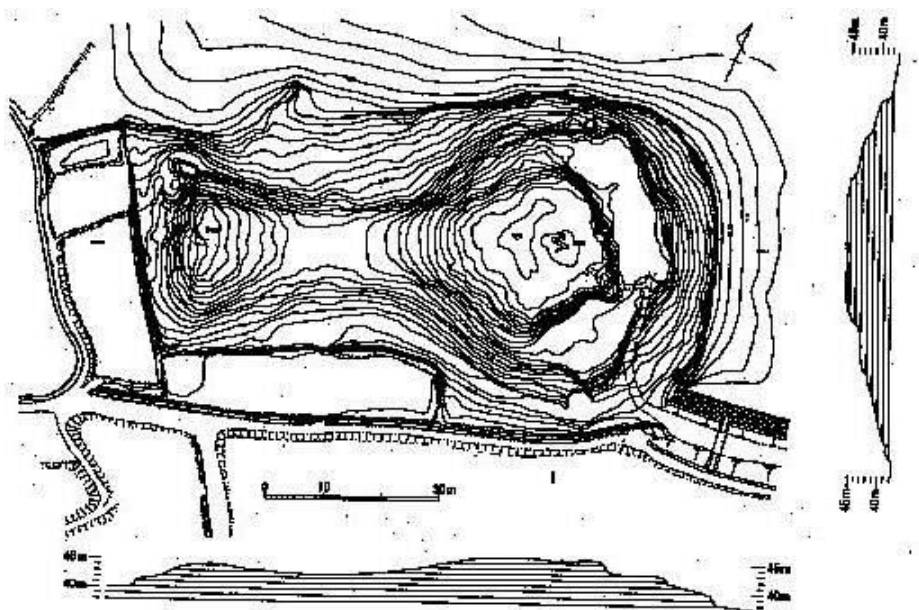
三谷石舟古墳石棺

方部幅二十七メートルを測り、高松平野最大の前方後円墳です。ほぼ水平に整形された基壇状テラス上に築造されています。葺石は明確ではありませんが、テラス面に敷石状の小塊石群が見られます。鷲ノ山石を用いた刳拔式石棺は長さ二・七七メートル、幅〇・七九メートル、高さ〇・四二メートルを測ります。平底の底部を持ち、長側縁が垂直に立ち上がることから讃岐産のものとしては最も新しい段階のものと考えられます。埴輪、須恵器、勾玉、切子玉等の出土が伝えられています。

7 石舟池古墳群

いしふねいけこふんぐん

三谷石舟古墳の北に所在する石舟池の堤



三谷石舟古墳実測図

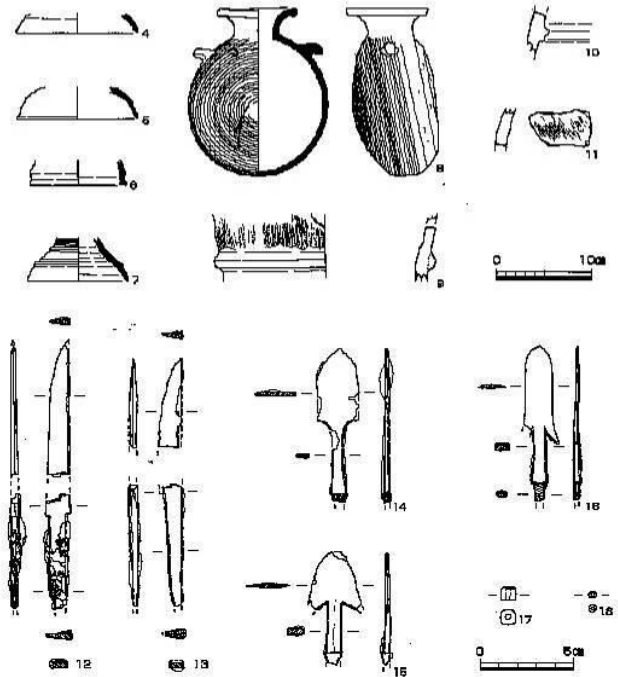
防の改修工事に伴い箱式石棺一基と十一基の円墳が発見されました。箱式石棺は三谷石舟古墳の後円部に近接した場所で発見されており、古墳時代中期のものと考えられています。池の北側堤防で見つかった円墳はいずれも直径五メートルと小規模なもので、古墳時代後期前半頃の古墳です。

8 三谷八幡宮

みたにはちまんぐう

天曆二年（九四八）小海基治が三谷村

中州の地に創建したといわれています。一方、『全讃史』では延長年間（九二三～九三一）に讃岐朝臣の子に兵庫という者があり、封を三谷に受け、火山の南に居り、男山の神を迎えて鬼門の鎮めとし、天曆三年（九四九）に堯存という僧に祭祀を司らせたと記載されています。当地を領する三谷氏の崇敬が厚く、永享二年（一四三〇）、宮中に怪鳥が現れた際



石舟池 2 号墳出土遺物実測図

に、三谷弥七郎景晴がその退治を命じられ、当社に祈願したところ見事撃ち落としました。その功により弓矢を賜り兵庫頭に任じられたたといわれています。弥七郎は此の榮譽は神威によるものとし、賜った弓矢を神前に奉じ、永享五年（一四三三）九月十八日に神領百石を寄進したといわ

れています。永正五年（一五〇八）に香西元定が上佐山城を攻めた際に火を放ち、別当の三谷寺も被災し、古記録神宝等が焼失しましたが、景晴の矢のみ災いを免れたといわれています。寛永五年（一六二八）に三郎池を築く時に池の中になることから遷座しました。宝暦十二年五月および明治二十六年四月に改築、昭和二年五月に修築されています。祭神は応神天皇（菅田別尊）、
ひめのおおかみ じんぐうこうごう おきながたらしめ
毘女大神、神功皇后（息長足毘女命）です。



三谷八幡宮

9 三郎池

さぶろういけ

堤長三九二メートル、満水面積三八・八ヘクタール、貯水量一七六万立方メートル、か

んがい面積四一七ヘクタールの池です。

寛永十年（一六三三）の『讃岐国絵図』にも、「三谷池」と明記されており、もともとは三谷池と呼称されていましたが、修築拡張され、満濃太郎・勝間次郎（元文元年（一七三六）決壊し、廃池後は神内次郎）・三谷三郎と並び称されたため、三郎池と呼称されるようになりました。『翁嫗夜話』に「三谷陂寛永五年戊辰春正月二十日載夏五月十五日告生駒高俊命西嶋八兵衛之尤幹事三野四郎左衛門（後略）」、『全讃史』には「監池吏の禄三石七斗なり 舊小陂ありき。生駒高俊、西嶋之尤に命じて更に大いにせり」とあり、寛永五年（一六二八）に元から存在した小池を拡張したことがわかります。

池の西岸では初期須恵器の窯跡である三郎池西岸窯跡が検出されたほか、池の南部では縄文土器などが出土することが知られています。

「三谷三郎の蛇」

むかしむかし、三谷三郎池にはいつごろから住みついたのか母と子の「蛇」がいました。母親の「じゃ」は身体が大きいので、三つの谷にまたがる三郎池でもきゆうくつでした。ある日つつみで昼寝をしていた子供の「じゃ」は、西の方に満濃池という大きな池ができたという、村人の話を聞きました。さっそく「お母さん、西の方に満濃池というところがあつて、たくさん水があるそうですよ、これからす

ぐに行つてくるといいですよ」とすすめました。それではと母親の「じゃ」は、あるあらしのよる、たつまきになつて西へ飛んでいきました。それからしばらくたつたある春の日、子供の「じゃ」がつつみで遊んでいました。村の子供たちがやつてきて、「三谷三郎池に「じゃ」がおるおると、大きな「じゃ」げな、うそじゃげな、わあーい。」と、子供の「じゃ」をとりかこんではやしたてました。子供の「じゃ」は母親が恋しくなり泣き出しました。くやしくなつた子供の「じゃ」が子供の中へとびこもうとしました。子供たちは「うわあー」と大声を上げて逃げだしました。その時です。うしろのたかーい、たかーいところから「坊や、坊や」というなつかしい声が聞こえてきました。そこにはりつぱな竜になつた母親のすがたがあつたのです。それからは、母と子は三谷三郎池でいつまでもしあわせにくらしたそうです。

「三谷地区地域おこし事業推進委員会設置看板より抜粋」

10

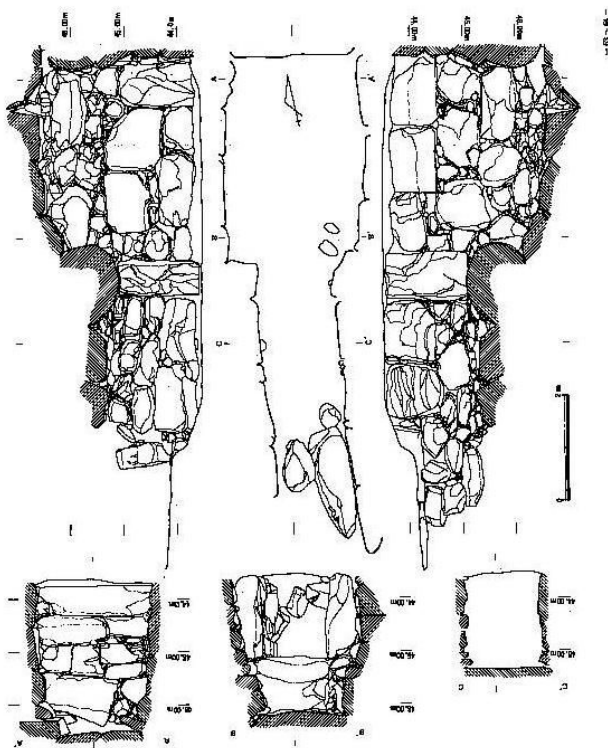
小日山1号墳 こびやま1ごうふん

日山の南東部に付随する小日山西側頂部に所在する全長二八メートル、後円部径一六メートル、高さ三・〇メートル、前方部幅一〇・〇メートルの前方後円墳です。後円部中央に長さ六・〇メートル、幅一・四メートル、深さ一・〇メートルの竪穴石槨が露出しています。かつて鏡が出土したと伝わりますが、詳細は不明です。立地、墳

丘および石室形態から古墳時代前期の古墳と考えられます。

11 やのづらこふん 矢野面古墳

削平されて墳形をとどめていませんが、高さ四メートルの盛土が残り、円墳であつたと考えられます。残存する石室は、全長九・五四メートル、玄室長三・八〇メートル、玄室幅二・六四メートル、玄室高二・九二メートルを測ります。高松平野南部最大の石室を持つ古墳で、石材も比較的大きいものが使用されています。須恵器の出土が知られており、概ね六世紀末から七世紀初頭頃の古墳と考えられます。



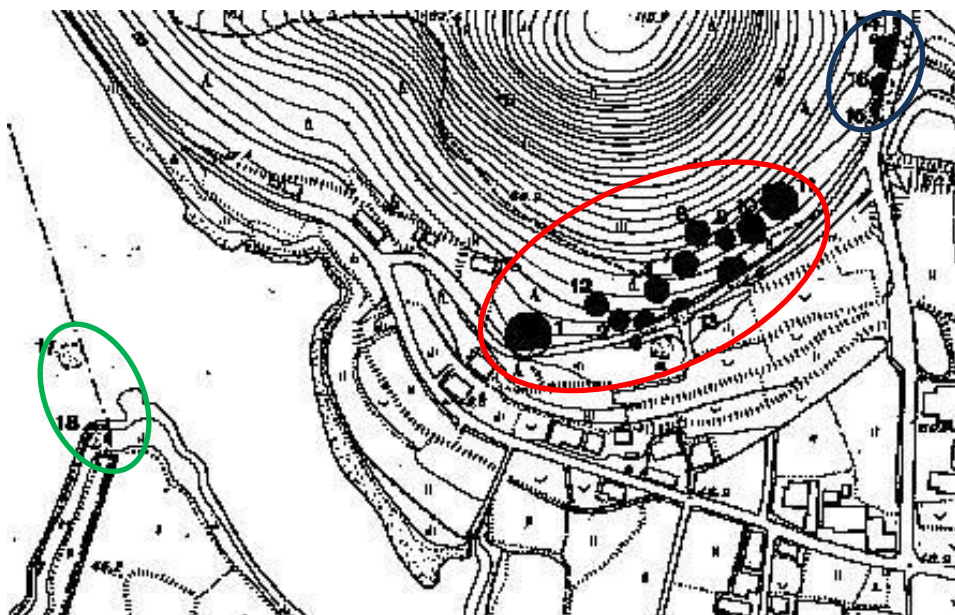
矢野面古墳石室実測図

12 雨山古墳群 あめやまこふんぐん

雨山の南麓に所在する小規模な円墳十二基と方墳一基からなる古墳群です。須恵器等が出土しており、六世紀末から七世紀前半頃の古墳群と考えられます。周辺には同様小規模な古墳が密集する北山古墳群・住蓮寺池古墳群が所在するほか、香川町万塚周辺にかけて古墳が点在していたことが知られています。

13 住蓮寺池 じゅうれんじいけ

多肥上町および三谷町にまたがる池で、堤長四一二メートル、満水面積一二・八ヘクタール、貯水量四九万立方メートル、かんがい面積一一五ヘクタールの池です。



雨山古墳群・北山古墳・住蓮寺池古墳群位置図

築造時期は、記念碑に四百年くらい経過しているとされていますが不明です。貞享三年（一六八六）の『翁嫗夜話』によると山田郡に住蓮寺陂という名前で記載が見られるほか、香川郡に多肥池と妙同石池みよとしいけという現在はない池が記載されており、この三つの池が住蓮寺池の前身と考えられています。また、住蓮寺池の北西にある円光寺の記録では寛延三年（一七五〇）に同寺の釣鐘の鑄造に住蓮寺池で行ったとの記述が見られることから、それまでには一つの池になっていたと考えられます。

住蓮寺池の名前の由来は、『十河称念寺由緒記』に「元暦（一一八四～一一八五）のころ住蓮坊本尊を供養して此州に来る蓋し有縁の地か草庵を結び本尊を安置し勸導す（後略）」とあり、法然上人の弟子である住蓮が建てた草庵に由来する可能性が考えられますが、寺跡もないため不明です。

参考文献

- 香川県教育委員会二〇〇七『田村遺跡』川島本町遺跡 川島本町南遺跡
- 香川県教育委員会二〇〇七『家の浦遺跡・川島本町山田遺跡』
- 香川考古刊行会一九九五『香川考古第三号』
- 香川考古刊行会一九九七『香川考古第六号』
- 讃岐のため池誌編さん委員会二〇〇〇『讃岐のため池誌』香川県農林水産部土地改良課
- 高松市教育委員会二〇〇五『雨山南古墳群く3号墳・13号墳く』
- 高松市教育委員会二〇〇七『平石上2号墳・石舟池古墳群』
- 高松市歴史資料館一九九六『第11回特別展 讃岐の古瓦展』
- 三谷郷土史編集委員会一九八八『三谷郷土史』